2022年7月17日主日共同礼拝メッセージ　　日本同盟基督教団　クリスチャンプレイズチャーチ

【神は決してあなたを見放されません！】　　説教者：鄭南哲牧師

本日聖書本文:士師記13章1－8節、16章28節　　（Rev.Jung nam-chul）

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間大雨やまた最近再び新たなコロナの変異株（BA.5）による感染拡大の歯止めが掛からない状況が続く中一週間もみんなお元気でしたか。引き続き今週にも教会家族みんなの健康と主の見守りを切にお祈り申し上げます。来週には川副浩太先生のお招き件で、臨時総会が開かれます。川副浩太先生がアメリカで神学生の時から、我らの教会が少しでしたが、支援し続け、卒業の後には、浩太先生がアメリカのコロンバス日本人教会で牧会をされる時にも、オハイオ牧場が浩太先生の為祈りと支援を続けて来た先生でもあり、我らの教会と長い繋がりを持って来られた先生です。浩太先生は、今後日本内での進路のため祈っているうちに、一層日本宣教の為仕え続けたいと願っておられ、日本同盟基督教団の牧師となることを決心されました。それで正式に教団の牧師になる前まで、みなさんが許してくださるなら、我らの教会で仕えつつ、共に信仰生活をしたいと願っておられるので是非教会員の方々も、まだ教会員じゃない方々でも来週臨時総会の為、祈りつつご参加下されば幸いです。

それでは、本日のメッセージは旧約聖書の7番目に出て士師記にはやく12人の神様に召された士師（さばきつかさ）たちについての御言葉が記されています。「士師（さばきつかさ）」というのは、まだイスラエルの王政（おうせい）時代の直前、約350年間、当時の神に召された預言者であり、勇士であり、イスラエルの指導者の役割をしていた人々のことでした。旧約聖書の中士師記に出て来る裁きつかさ（士師）の意味は**ヘブル語**で**‘ソペティ、ショペート（shophet）’**と言います。
その意味は言葉どおりに**‘民の訴訟（そしょう）を裁判する者’**という意味として**‘裁きつかさ’**、もしくは**‘治める人（judge）’、‘救う者（deliverer，savior,士師記3:9）’**という意味もあります。イスラエルに神様によって王がいない前の約350年間（1388-1052年BC）、神様は12人の裁きつかさたちを立たせ、彼らをイスラエルの民たちのために用いてくださったことが分かります。

士師記2章16節～23節まで読んで見ると、神様がなぜ士師（さばきつかさ）を召して立てて下さったのか、そして、当時、神様の御前で、不信仰で堕落していたイスラエルの民の暗い状況がよく要約されています。神様は、その時に、苦しんでいた神様の民たちを敵から救うために、そして、神様の御心通りに民を導き、神様の公義と正義を表しつつ、それで治めながら、必要な時々に裁きつかさたちを立てさせ用いて下さったことが分かります。

その中本日は先週8番目エフタに続き、今日は、12人目に選ばれたのがよく知られている超力の持ち主であったサムソンっという人です。サムソンの名前の意味は、「**サムソン（Samson:太陽の人）**」という意味通り、だれより太陽のように熱い人生を過ごせた神の裁きつかさでした。彼は、20年間長くイスラエルの指導者であり、裁きつかさとしての務めた信仰の人物でした。特に今日の本文士師記13章～16章までに彼の出生（しゅっせい）から、彼の人生の最後の時まで他の裁きつかさよりも詳しくサムソンの一生涯について記されています。

今日の本文13章を読んで見ますと、サムソンという人は生まれから神様に最も祝福された者であったことが分かります。サムソンの話は神の御使いが彼の両親の元に現れ、預言の言葉をつげる印象的な場面から始まります。彼らには子供がなく、サムソンの母は不妊の女性でしたが、神様はそんな二人に、将来イスラエルの裁きつかさとなるサムソンを特別に区別された存在として授けて下さいました。御使いの預言の通りに、生まれ、成長したサムソンは、神様からの超自然的な力、魅力的な容姿（ようし）、そして神様との親しい関係を保つ者として特別に与えられていました。このように特別な力と能力を頂き、祝福された特別な指導者の人生だったのにもかかわらず、彼は「自分」という一番の敵に悩まされていました。そのために、サムソンは人生を台無し（だいなし）にしてしまい、あらゆるトラブルをその身に招くことになったのです。

残念ながら人間の本性は普遍的だと思います。ですから、サムソンの失敗は今日の私たちにとっても他人事ではないんですね。サムソンは、取り返しのつかない誤った選択を我らもくり返してしまわないように気をつけたいと思います。そして、その過ちから何一つ学ばないうちに、我らも自分の人生を台無しにしてしまう可能性があることを覚えて置きましょう。

今日聖書は、裁きつかさの中でもっとも有名で、有能なサムソンだったのにも関わらず、神派彼の失敗例を書き残させ、今日の私たちにまで、伝えて下さっている理由は、サムソンの人生を通して、人が神から与えられている一度の大切な人生を台無ししてしまう典型的なパターンを知り、そのようなの罠(わな)に我らも、捕らわれ、陥らないように、よく見極めることができるようにするためであることが分かります。また、サムソンの過ちや失敗を板面教師として、繰り返さなければ、むしろ、これから起こりうる様々な問題を乗り切って行くことができると信じております。我らも過ちを犯したり、失敗する時もあるでしょう。しかし、人生が分かれるのは、その後でしょう。先に結論で言いますと、サムソンは結局、自分の色々な過ちや失敗から、自分を振り返り、その失敗から一切学ぼうとも、自分を変えようとしなかった結果、さらに自分を苦しませ、大いに用いられる人生が残念に終わってしまいました。
まず、サムソンの失敗事例を見る前に、いつも自分の**失敗や過ちから学ぼうとしなければ、自分に大きな苦しみを招くことになってしまうことを覚えておきましょう。**

①神様に対して真剣にならなかったサムソン

神に召し出された裁きつかさ、サムソンでしたが、衝撃的なことは、聖書でサムソンの生涯の全般的に、とても残念ながら、日常生活の中**「神様に対してとても無頓着(むとんじゃく)」であった」**ことが分かります。サムソンは、自分の霊的な生活については無頓着でした。彼は神様に召された者として、彼が頂いた自分の力、立場、欲求、感情などばかり向いて優先にしながらも、サムソンは真剣に神様に近づこうとしたことは一度もなく、それはさまざまな場面で問題を引き起こす根本的な原因ともなりました。
サムソンには、イスラエルの指導者として、神様から与えられている大切な使命と大きな責任があったのにも関わらず、いつも自分のことがさきでした。**彼の生活スタイルの特徴は自己中心の一言**につきます。サムソンの左右の銘(さゆうのめい)は、「気が向いたらやる！」みたいでした。神様はサムソンに素晴らしい人生を計画しておられました。それは、私たち一人一人に対する神様のご計画と同じように素晴らしいものだったのです。しかし、サムソンは神様の御計画について無頓着でした。いつも適当で、真剣に考えることはありませんでした。その結果、自分の人生を台無しにしてしまったのです。
20年間に渡って士師(裁きつかさ)を務めてもなお、ペリシテ人を迎えることができず、最終的には彼らに殺されるようになってしまいました。

聖書を読む限り、本文の16章28節は、サムソンの人生の最後の前に、祈った内容です。残念ながら、サムソンは、人生の最後の場面を除いて、**サムソンが真剣に祈った様子がなかったことが分かります。**今日の16章の内容はサムソンの人生の最後場面が書かれていますが、サムソンは、人生のすべてが崩壊してしまうまで、神様のために生きることについて真剣に考えたことがありませんでした。16章のサムソンの最後の場面を読んで見ますと、ペリシテ人に捕らえられ奴隷となって、両目をえぐり取られ、家畜の代わりに大きな石臼(いしうす)を挽(ひ)くという仕事をさせられて死にそうになった時に、ようやく彼は真剣に神様のことを考えるようになったのです。自分の人生の大切なすべてを失い、崩壊したごろになってから、サムソンはついに神様に真剣に祈ったわけであります(16章28節)。
神に選ばれ、神様から他の人が持ってない特別な力と能力も頂き、イスラエルの裁きつかさとなった特別な人生だったのに、働いているうちに、真剣に神に祈ったことがなかったのは、とても惜しくて、残念ではないでしょうか。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！もしサムソンが働いている時に、祈ることを知っていて、心から神様に頼って祈っていたら、彼の人生はどう変わったでしょうか。人生が台無しになってしまうまで、すべてが崩壊するまで、神様に頼り、立ち返ることができなかったのはなぜできなかったのでしょうか。自分が持っている力と能力ですべて解決できると自信満々に思い込んでいたからでしょう。
祈りのない生活を続けた結果、サムソンの人生の可能性が完全に閉ざされてしまったことを私たちはサムソンのあの人生の最後の姿を見ながら、きびしく受け止める必要があります。今日私たちも、何かに飛びついて問題を引き起こしてしまう前に、まず立ち止って神様の御心を求め、頼り祈ることが大切であることを学び、忘れないようにしましょう。
そうすれば、余計な問題がおこるのを避けることができ、痛い思いをしないで済むからです。
サムソンは、窮地に追い込まれるまで、真剣に神様にむけようとはしませんでした。今日、もし、私たちの信仰の姿勢も祈る

生活を後回しにしている最近ではないでしょうか。もし、我らの信仰が**「困ったときの神頼み」**のようではありませんか。今日も多くの人にとって神様は、「困ったときの便利屋」にしかすぎないで、すべてがうまく行っているときは神様を忘れてしまう時はなかったのかしばらく最近自分の姿を振り返って見たいと願います。
神様に対して真剣になるとは、神様の言われることに真剣に耳を傾け、毎日神様の導きと知恵を求めて生きることにほかならないことをともに心に受け止めていきましょう。

②短気で感情的なサムソン

神様と真剣になることも、祈ることもなく、神を離れて、自身の力と能力を自慢し続けて来たサムソンの様子は、いつも先に感情的になりやすく、とても短期でした。サムソンは激しい性格の持ち主で、しばしば自分の怒りと感情を爆発させてしまう時が多くありました。**士師記14章12-19節**を読んで見ると、**彼の行動の重要な動機**を探って見ると、それが仕返ししようとする**復讐心**であったことが分かります。着物を奪い取るために30人を殺した時、彼のうちに燃えていたのは**怒りの一念に燃え**ていました。**士師記15章3-5節**に畑に火を放(はな)ったのも、サムソンの仕返ししようとする心のためでした。自分の嫌っている人々に向かって復讐を誓い、**「おまえたちがこういうことをするなら、私は必ずおまえたちに復讐する。その後で私は手を引こう。(15章7節)」**と宣言したこともありました。後日(ごじつ)、彼は**「彼らが私にしたとおり、私は彼らにしたのだ。(15章11節)」**と言って、神様が下さった力で、さらに何千人の人々を殺すのに使ってしまいました。

③自分の体の欲求と快楽を満たすことに夢中だったサムソン

神様と真剣になることも、祈ることもなく、神を離れて、自身の力と能力を自慢し続けて来たサムソンの様子は、肉体的な要求と快楽を満たすことに多くの時間とエネルギーを費やしてしまいました。その結果、神様の約束と御言葉を無視して来た彼の人生は、なさけないほどの失敗の連続でした。サムソンは失敗から決して学ぼうとせず、同じ過ちを何度も繰り返ししました。彼にとってそれは、まるで「火傷(やけど)をしないで、どこまで炎(ほのお)に近づけるか。」というゲームのようなものだったのかも知れません。ある時、サムソンはイスラエルの敵の国であるペリシテ人の中売春婦デリラという女と知り合いになり、彼はいつものように、彼女との「火遊び」を楽しみ始めました。ペリシテ軍から辞令(じれい)を受けたデリラはサムソンの強さの秘密を探ろうとして、何回も徐々に誘惑している内にサムソンは神様との約束を破り、彼女にすべてを告白してしまったのです。
そしてついに、サムソンはペリシテ人たちの手に渡されて恥辱と侮辱受けてしまいました。サムソンとしては、小さな火遊びのつもりだったかも知れませんが、自制出来なかった**過剰な性的欲求**に夢中になってしまったの結果は、祝福されたサムソンの人生燃やしてしまう原因の一つとなっえしまったことが分かります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今日私たちにもサムソンと同じような傾向があるのではないでしょうか。たとえば、「今回だけ、たった一度くらい」と言いながら、自分の良心をごまかしてしまったり、自分の行動を正当化しようとしたことはないでしょうか。**「一回だけなら、傷つけることにはなるまい。心配するのはこの一回だけにしよう。絶対この一回だけ。一回だけこうしてみようか。」**と。
みなさん！**誰も自分が取り返しのつかない失敗をするとは思っていないのです。**しかし、人生の失敗はとても自然な形で徐々に、段階的に、少しずつ、私たちはうしろに後進していくのです。みなさんもご存じのように、**人生は、一日のうちに崩壊してしまうのではありません。私たちが自らの失敗から学ぶことを拒んでいる間に、いつの間に取り返しのつかないことになってしまうこと**をサムソンの話を通して下さった神様の教訓をきびしく受け止めなければなりません。

④周りの人々に左右されやすく、影響されやすくなったサムソン

神様と真剣になることも、祈ることもなく、神を離れて、自身の力と能力を自慢し続けて来たサムソンは、神の代わりに、周りの人々に流され、人々に影響されてしまいます。サムソンは、神の人であり、裁きつかさとして、周りの人々に影響を及ぼす存在だったのにも関わらず、神様の人だったサムソンを破滅させたのは、**彼のまずい交友(こうゆう)関係**でした。神に選ばれ、特別な任務が与えられていたにもかかわらず、サムソンは**不健全な人間関係を築き上げ、よくない友人たちの影響で道を歩み外してしまった**のです。私たちは、最も多くの時間を過ごした相手に似せられていく傾向があります。だ

からこそ、友人を賢く選ばなければなりません。旧約聖書の箴言には、否定的な人間関係につちえ何度も忠告(ちゅうこく)をあたえて下さっています。**人を建て上げるよりも、つまずかせる方が簡単なのです。**
それでは、**どんな友人を持てばよいのでしょうか。私たちは、神様の前で私たちの最善を引き出し、私たちを建て上げるため励ましとともに心から分かち合い、忠告してくれる友達**ではないでしょうか。
箴言27章17節では「鉄は鉄によって研(と)がれ、人はその友によって研(と)がれる。」
箴言22章11節では「心のきよさを愛し、優しく話をする者は、王がその友となる。」
特に、驚くべきことは、**ヨハネの福音書15章14-15節**には、「14 わたしが命じることを行うなら、**あなたがたはわたしの友です。**15わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人のすることを知らないからです。**わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたに知らせたからです。**」
主の御言葉通り従っていている人たちに、神様はその人に友となって下さり、我々も主の友とさせてくださるということです。**人生の一生涯の信仰の友として主とともに同行するこの素晴らしい特権がすでに我々に与えられています。**
残念ながら、サムソンは神様と親密に交われるこの特権さえ、当たり前かのように軽く思い込んで見逃してしまって、かえって、**淫乱な友、罪と破滅の道においやる人たちを友**として作ってしまったのが問題でした。(我らと子供たちの為、良い出会いさえも祈れざるを得ません。)

＜結論:それでも、神様は決してソロモンを見放されません！＞
しかし、愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！もしこのサムソンの聖書の話が台無しですべて失敗で終わってしまったら、人生のすべての失った落伍者のように悲劇のある人物のお話になってしまうでしょう。しかし、神様はそうなさいませんでした。みなさん！ペリシテ人が切り落としたサムソンの髪の毛は、サムソンが神様と交(か)わした契約のしるしでした。サムソンの髪の毛は外面的な象徴で、本当の力の源は神様が下さったことをペリシテ人たちはしらなかったのです。ペリシテ人は、サムソンの髪の毛を剃(そ)り落としたことでサムソンも、彼が信じていた神様も打ち破ったと思い込んでいました。

しかし、**神様はサムソンの事態が変わるように導きます。**どなたが**士師記16章22節**を読んでいただきますか。**「しかし、サムソンの髪の毛は、剃(そ)り落とされてからまた伸び始めた！」**ハレルヤ！
サムソン自分自身さえも、もうすべてが終わりだと落ち込んでいた時さえも、神様はそんなソロモンのために、やり直しのプロセスを始めてくださいました。そして、大分遅くなったとしても、サムソンは初めて真剣に神様に無かって心から悔い改め、祈り始めました。力を求めて神様に頼るようになった時、神様はサムソンの願いを聞き届けられました。
神様は再びサムソンに力を注がれ、彼は生きている時の勝利より、最も大きな勝利を与えました！サムソンは勇(いさ)ましい英雄的な活躍を遂(と)げて、人生の幕を閉じることが出来たのです。神様から第二のチャンスを与えられた時、サムソンは人生の最期の時に、最大な勝利を収めることができたのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！この事実は今日私たちにとって大きな慰めとなっていませんか。もしかすると、我々の中にも、「今まで自分は人生を台無しにしてしまった。自分のことはもうお神様から愛されていない。二度と以前のように、神様に恵まれ、用いられることはないだろう」と思っている方がいるかも知れません。
しかし、その時に、サムソンのことを思い出してください。神様は、サムソンのことを決してあきらめてしまわれませんでした。ですから、神様は今日もみなさんのことも決して見放されないのです。
新約聖書ヘブル人への手紙11章にはサムソンが神様の信仰の殿堂(でんどう)入りを果たし、偉大な信仰者たちのリストに名前が記されていることは、非常に勇気つけられる事実です。**もし神様が昔も今も完璧な人だけを用いられるとしたら、だれ一人として何も成し遂げることができなかったはずです。しかし、神様は不完全で、弱いごく普通の人々、場合によっては大きな失敗を犯した人々を用いられるのです。**もし、みなさんがサムソンだったら、今からどうしますか。自分の人生をつねに神様にゆだね、祈り、交わって行くことが必要です。私たちの最善と本当の人生の可能性を神様だけがご存知です。神様が、ご自身の力でしてくださることなのです。神様にその力を頂こうではありませんか。同じ失敗を繰り返さず、失敗してもまた日々神様によって立ち上がり、主と共に進み行ける全信仰の家族となりますように心からお祈り致します。